

第2回 吉川中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月22日

会場：吉川中学校

1 通学に関する課題

- 朝の登校時間帯に、みなぎ台小学校周辺の交通量が多い。こども園の送迎に保護者の車が80台ほど来る。緩和のために、始業時間に時間差を設けるのはどうだろうか。
- 現在、学校によっては、下校時間が学年によって違ったり、一斉下校であったりする。バスを走らせる場合、複数の便数が必要になる。放課後に勉強をさせたり、遊んだりできるように対応してもらうことは可能なのか。
- 地域により、統合先の学校まで距離が長く、陸上の練習や行事で遅くなる時、保護者が迎えに行くのは難しいかもしれない。さらに1便必要だ。通学経路や距離によっては、バスに乗っている時間がだいぶ変わるため、コースや便数には工夫が必要である。
- 低学年の終業時間と高学年の終業時間の差を埋めるために、低学年と高学年と一緒に下校させたり、帰りのアフターを無料にして、勉強できたりする環境を作れば、帰りの時間もまとまった時間になり、多少遅い時間にバスで帰っても、近くまで親が迎えに行くことも可能になる。下校時間の調整の工夫を保護者は願っている。
- 職員や保護者のための駐車場の確保も必要ではないか。みなぎ台の入り口に、20年ぐらい使用していない浄化槽の施設があるので、活用を考えてみてはどうか。
- 登下校時のみなぎ台小学校周辺の交通量が多いが、バス送迎の利便性が低ければ、保護者の送迎が更に増える可能性がある。子どもたちのために、枠組みを見直して行く必要がある。
- 仕事で、子どもの帰宅時間に保護者がいない家庭は、遅く帰ってきてくれる方が良い。
- 瑞穂地区のバスは1路線だけだが、バス停や運行時間の調整が大変であった。ルートや子どもの数によって、バスのサイズや本数も影響し調整が複雑になると予想される。
- 家から集合場所までさらに時間がかかると、かなりの時間差が出て、スクールバスが不便に感じられる。バス停までの距離は、家から徒歩5～10分ほどで行ける場所で選定すべきである。下校時、真っ暗になれば、家までの徒歩が心配である。

2 学校の再編方法（喫緊の課題及び小中一貫校や義務教育学校への再編）

- 将来、小中一貫校や義務教育学校になる見通しがあって、その前段階で小学校が統合するということをしっかりと周知し、皆が理解しておくことが大切である。そうでないと小学校の統合後に、小中一貫校に再編される際、統廃合の繰り返しに見える可能性が出てきてしまう。
- 違うところに学校が建つと、一度に学校が5つなくなってしまい、地域の特色が失われる不安や避難所などの不安がある。
- 小中一貫校（義務教育学校）で進めていくのならば、先の見通し足元を固め、賛成の数が少しでも反対の数を上回れば、市としての方針を出して進めるべきではないか。
- 今は少人数だから、一人ひとり手厚く見られている。大人数になった時、運動面に関してはいいが、学習面が不安である。
- 少人数と多人数での学習を比べて、少人数の方が手厚く見られるので学力が上がると考えるのはどうかと思う。子どもや教員、学び方によって変わってくる。
- 少人数できめ細やかに見れても、その効果は限定的だ。やる気がある子は伸びるし、ない子はどんなに手厚くされてもなかなか伸びない。そこは理解しておかなければならない。子ども同士による相互の学びもあり、人数の多い少ないは一長一短がある。
- 人数が増えることについて、親の関心事は2極化している。1つ目は、大勢の中で、

取り残される子になってしまうのではないかという不安と2つ目は、大勢の中で揉まれて競争心などが出てくるという期待である。

- 運動場が小中一緒だと、授業や部活の兼ね合いはどうなるのか。制服や体操服はどうなるのかといった疑問がわいてくる。
- 小中一貫のメリットは小中の隔たりがないことだが、上級生の影響が悪い方に出てしまうことにも不安がある。そのような時、地域の方のコミュニティスペースを併設することにより、子どもと地域の方との交流もでき、見守りにもなる。下校時に一緒に帰るということもできる。
- 中学生は部活動があるので、通学の問題がある。どこまでが自転車通学になるのか。
- 統合で校区が広範囲になるので、地域で友だちと遊んだり集団行動を学んだりするような場面ができるのか。この地域部会の中に子どもの声を取り入れてほしい。
- 小野市や加東市（今後建設）の小中一貫校があるが、その関係の話が聞ければ少しはイメージがわくが、今はあまりピンと来ない。

3 事前準備及び交流

- イベントだけの交流ではなく、例えば、週1回で勉強会をどこかの学校で一緒にするなどのレベルでやっておいてはどうか。学年単位なら1台のバスで移動も可能だ。
- いきなり合併するとなれば、学級が5人だったのが30人程度になるので、それをする前に、ある程度の期間交流の回数を増やすなどする必要がある。
- 子どもは、行事や習い事でも顔見知りになるが、親は機会が無い。PTA行事も学校によって違うので、各学校が今何をしているか、何を大事にしていくかを少なくとも1年ぐらいかけて、すり合わせる必要がある。積み立てされているお金の問題もある。
- 今現在ではなく、昔から積み立てられたお金でもあるので、統合までに無理して使うのではなく、新しい学校のために使ったらいいと思う。

4 小中間連携教育、小小間連携教育の状況

- 小学校間の交流については、5年生で自然学校、6年生で人権学習と修学旅行、他の学年でも様々な体験学習（校外学習）などの機会がある。
- 小学校と中学校の教育上の連携はよく行っている。しかし、中学校の教師が小学校を訪問したりするなど、教師の連携が中心である。中学校の行事に小学生を招待するなど、まだやれることはあると考えている。
- 但馬の方では、期間や曜日を決めて、どこかの学校に集まり交流をすると聞いている。いきなり統合するのではなく、そのような慣れるための取り組みが必要ではないか。

5 全般について

- 廃校になった学校を地域の方が喜んで訪れる場所にするなど、夢のある廃校利用も並行して考えてほしい。
- 今は大人の意見のみ聞いているが、子どもの立場になって、子どもの意見ももう少し聞いてあげてほしい。
- 新聞にあったみなぎ台小学校に集約するという案が、決定だと思っている方が多い。統廃合に反対されている方の多くはそこに抵抗がある。
- 統廃合となると、教員の数も関係してくる。現場の教員はどう考えているのか。
- 統合の目的は何かを明確にしてほしい。吉川の人口、子どもの数は減ってきているが、外から三木に移住したくなるようなビジョンを、学校の建設時に示してもらいたい。アフタースクールのようなものができれば、皆さんに喜んでもらえるのではないかと人が集まるツールとしての学校づくりをしてほしい。